

Be ambitious!

新聞の書籍広告欄に大書された「野心作!」の文字。多くの作品を発表し、長く安定した読者を持っている作家の新作の広告です。出版社の売らんがための刺激的なコピーかなと思いつきながら手に取り、読後、作家の渾なく「野心」が感じられて嬉しくなることがあります。「野心」という語を辞書で調べると、「大きな飛躍を望んで、新しいことに大胆に取り組もうとする気持ち」とあります。現在の自分に安住せず、大きな飛躍を望んで、自身を未開の野に放つところ。その果敢な意欲から生み出された作品。読後の感興に満たされて、自身も現在に甘えることなく、未来に向かって ambitious な意欲を胸に、歩みを進めていきたいと思うのです。

ひとは誰もが初めての自分を生きています。一瞬一瞬自分自身を創造しています。その創造に、妥協のないぎりぎりの愛情を込められたらなんとすてきだろう。そして、そのような自分創造は、まわりの人に何の影響も与えず、またまわりから何の影響も受けずに行われることはありません。自分とひとは「共生」している。自分を大事にすることと、ひとを大事にすることは、一つのことの両面です。自分を大事にできる人は、ひとを大事にできる人。逆に、ひとを粗末にする人は、自分をも粗末にしてしまう。自分創りに手間と愛情をかけるひとは、ひととの関係においても手間と愛情を惜しまないひとでもあります。

しかし私自身、多くの〈もの・こと〉のまえを、かりそめに通り過ぎてしまいます。私たちは往々にして、自分のまわりには〈ほんもの〉を要求するのにも、自分をほんものにするをおろそかにしがちです。やりたいことをやれて、ひとからも認められて、といったようなことはめったにない。なかなか思った通りにいかない。そこからだと思うのです。人生が始まるのは。自分を捨てず、ひとを恨まず・羨まず、自身を尽くしていけるか。人生の複雑さに耐え、しっかりとした根を持つために。そして、しなやかな翼を持つために。 Be ambitious!



飯山 等
学校長